

松原弘明
《彫漆箱「律」》
東京都教育委員会賞

第41回 日本伝統
漆芸展

JAPAN TRADITIONAL Urushi Works EXHIBITION 2024

2024年

3月9日 土 — 3月27日 水

主催 = 高松市美術館 公益社団法人日本工芸会

後援 = 文化庁 香川県 香川県教育委員会

朝日新聞社 公益財団法人岡田茂吉美術文化財団

四国新聞社 NHK高松放送局

KSB瀬戸内海放送

OHK岡山放送

RNC西日本放送

RSK山陽放送

TSCテレビせとうち

会場
高松市美術館1階
【常設展示室1】

【観覧料】

一般 200円(160円) 大学生 150円(120円)

65歳以上・高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金 ※常設展示室2もご覧になれます。

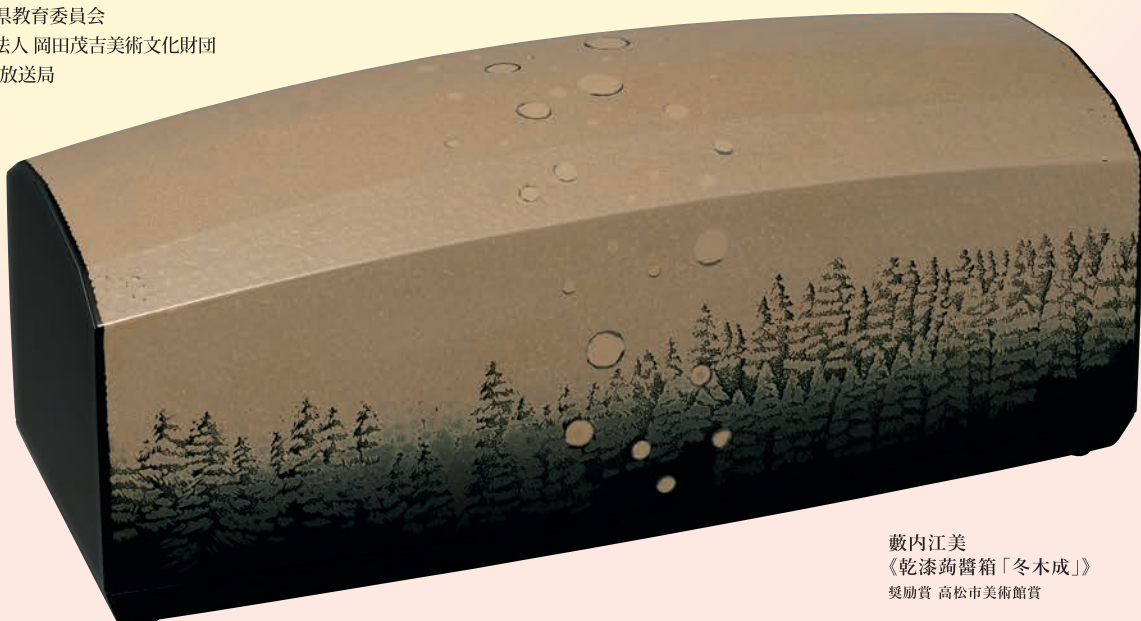
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

【開館時間】

9:30～17:00(入室は閉館30分前まで)

【休館日】

月曜日



藪内江美
《乾漆蒔繪箱「冬木成」》
奨励賞 高松市美術館賞

第41回 日本伝統漆芸展

JAPAN TRADITIONAL Urushi Works EXHIBITION 2024

常設展示室 1 2024年 3月9日(土) - 3月27日(水)



荒川文彦
《髹漆八角箱「あけぼの」》
朝日新聞社賞



水尻清甫
《沈金箱「波の華」》
MOA 美術館賞



神垣夏子
《藍胎蒔髹短冊箱「炎昼」》
奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞



大角佳美
《沈金箱「水底の影」》
日本伝統漆芸展新人賞



山下義人
《あかね蒔髹鉢》
重要無形文化財「蒔髹」保持者



大谷早人
《藍胎蒔髹大香合「夕風」》
重要無形文化財「蒔髹」保持者



伴野 崇
《乾漆高坏「夕の時雨」》
文部科学大臣賞

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆芸。日本伝統漆芸展は、伝統の継承と現代生活への応用を目指し、日本伝統工芸展の漆芸部会展として開かれています。第41回となる本展は、東京・高松・広島 の3会場を巡回し、受賞作7点を含む入選作品全75点を展示いたします。

重鎮から新進まで漆工芸への飽くなき挑戦がうかがわれる本展覧会は、後継者育成に大きな貢献を果たしています。各地の伝統が育んだ地域性をも展望することできるまたとない機会です。本展が見せる磨き抜かれた技と美への探求と共に、常設展示室2で開催されている高松市美術館のコレクションによる「追悼 磯井正美展—伝統から創造へ」も併せて鑑賞いただき、漆芸の魅力をお楽しみください。

列品解説

会期中、展示室内において下記出品者による展示作品の解説を行います。※要観覧券

3/16(土) 14:00~

藪内江美氏
(日本工芸会正会員)

3/23(土) 14:00~

石原雅員氏
(日本工芸会正会員)

同時開催／常設展示室 2

2023年度 コレクション展 5

追悼 磯井正美展 — 伝統から創造へ

漆芸家・磯井正美(1926-2023)は、1926(大正15)年、のちに重要無形文化財蒔髹保持者(人間国宝)となる漆芸家の父・磯井如真の三男として高松市に生まれました。1946(昭和21)年、作家活動を開始し、以後、晩年まで漆器の造形や蒔髹のより豊かな加飾表現を追求し続けました。如真が開発した「点彫り」を発展させて揺れや動きを伴う繊細なモチーフを見事に表現した「往復彫り」の創案をはじめ、色漆などの素材の性質を応用した表現に至るまで、次々と新たな技法を確立していきました。1985(昭和60)年には、重要無形文化財蒔髹保持者に

認定されました。

本展では、昨年9月に惜しまれながら逝去した磯井正美氏を偲び、高松市美術館が所蔵する作品全35点を展示します。新たな漆芸表現を切り拓いてきた豊かな発想の軌跡を振り返ります。

磯井正美
《蒔髹むらさき箱》
1990年
高松市美術館蔵
撮影：高橋章



【交通のご案内】

- ◎ JR：高松駅下車、徒歩約15分
- ◎ ことடன்：瓦町駅または片原町駅下車、徒歩約10分
- ◎ 路線バス：紺屋町または丸亀町参番街下車、徒歩約3分
- ◎ 高速バス：県庁通り下車、徒歩約8分
- ◎ 空港リムジンバス：兵庫町下車、徒歩約4分
- ◎ 駐車場：美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)